

日記

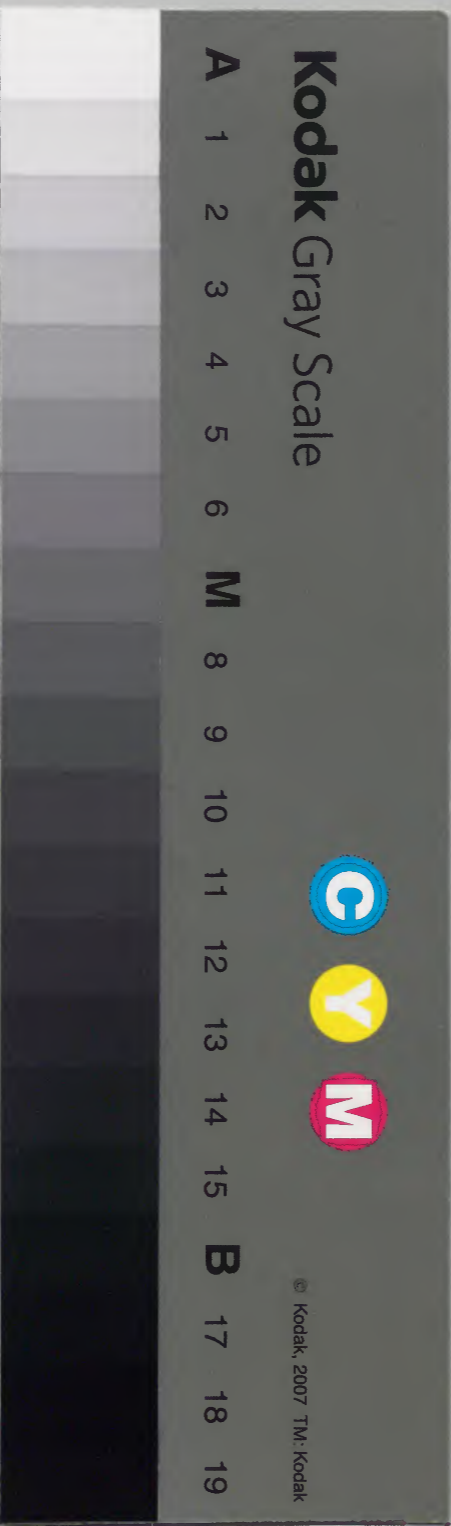
自寛永三年六月  
至今年九月

入

巻

内閣文庫	和書類
三三六〇	冊
一三	架
一五〇函	

内閣文庫	番號	和 32660
	冊數	13 ( 6 )
	函號	150 17



寛永三寅年

六月廿日

公御入洛是日

公之御入洛は御帰還を云々窺為小

將軍家より川勝佐治と云々使々々京御到

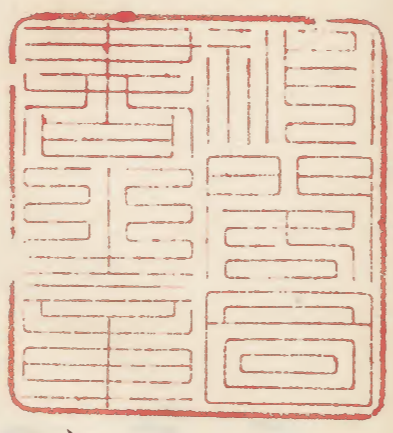
公佐治等より御前より云々御書を

將軍家より云々

為入洛見舞は云々裁川勝佐治等より云々入洛後  
欣悦云々云々委曲お合は云々也云々流云々

六月廿日

御澤



大樹

同大六日紙衣等お忠直松平室公の別邸に寓居し  
依る事 依る法條目

定

- 一 卷取より奥は十より上の男一切出入はせらる事
- 一 女出入事 つかひを執後等如くせしむ事
- 一 手形を以て出入せしむ事
- 一 出家無陸陽師卷取一切入す事
- 一 技持人より医師むす入しむ事
- 一 礼とす者は此後を以て中並かた向の使

有る時ハ是又此後を以て中並事

- 一 祿高賣人並むきしむ者つかひせし入  
まきしむ

- 一 けしむこみな女かくれしむ事

- 一 ちりひめうちえまひの元一切は止す事

- 一 惣として奥より用ひしむ事 女とし紙

つかひしむ事 一切を用ひす事

右いひひまの事 海軍の事也

寛永三年六月廿六日

御黒印

同晦日若林和泉守卒也

七月朔日遠心新八郎為庸大書之勤仕す

同十日松平丹後守重忠卒也

同十三日

將軍家法上洛とて江戸の城出御神奈川に参御

將軍家の命を多し其之を禮及徳隣法眼法匠乃

首よりとて中世三人小葉を求むはそ縁を問ひす

貧病を撰む人痛人を療へ給ふ

同十三日 友次不 参御

同十四日雨に依りて日友次不 御滞留

同十五日小田原 参御 小田原城主 吉良

同十六日三浦子 参御以不又一日御滞留

同十八日清水に参御

同十九日後召久徳山

東照大権現乃御廟社小御系詣 御召來を供奉し面

岩袋集是日後府乃城小 参御城を御納言忠長に召懸

同廿日田中城小 参御以不忠長の願知之

同廿一日熱川乃城小 参御 以城を忠長の臣朝倉胤後守 召懸乃居城あり

同廿二日淡根乃城小 参御城を言力柄澤守忠房共

膳を致す

同廿三日右田乃城より志門城より松平主殿氏志利兵衛を

致し志利の嫡子又郎八郎後主膳正士侍り志房と号す 御前より 石臼御湯

付法服指鯨を又郎八郎より致し自是先き

公御上洛に付右田の城より致し又郎八郎

公より通す御小法腰お煙を又郎八郎より致し

同廿二日長濱の城より 志門城主本多伊勢守志利

兵衛

同廿五日桑名に城より 志門松平の御より定行兵衛を

御より下より 御滞留

同廿七日大坂御城中へ揚子此條目

定

一 自給に付二九の外は一切出る迄事

一 墨舟ありし大坂在番の外二九より内へ一切入

る浦事

一 下より至まゝに事し、城を急ぐに抱込事

右堅てお守は旨也

寛永三年七月廿七日

御墨下

阿部信中より

高木主水正之

稲垣持信より



以てす是月中旬

將軍家流の城小 波印有時小沙腰物是衣資令在

定得子揚子山腰物出綿を定得是を執す 將軍家八月申初  
九月中旬より定得の

城子  
津洋西

同十八日

公大政大臣に任し給ふ 元正大臣  
從一位

將軍家左大臣に任し給ふ 元正大臣  
從二位

同十九日 後河内守に任し給ふ 元正大臣  
從二位

尾張守に任し給ふ 元正大臣  
從二位

紀伊守に任し給ふ 元正大臣  
從二位

水戸冬藏 秋房に任し給ふ 元正  
從一位

松平汎前 利常 本氏前田氏後肥前守に改む申納之  
利長の子實子實子實子實子の男 権中納言に

叙す 元正  
從一位

松平茂房 宗久 本氏前田氏後肥前守に改む申納之  
茂房の子實子實子實子の男 権中納言に任し給ふ 元正  
從一位

松平伊豫守 忠昌 中納言茂房  
の二男 参藏に任し給ふ 元正  
從一位

松平玄因 備前守 忠雄 本氏前田氏後肥前守に改む申納之  
忠雄の子實子實子實子の男 参藏に任し給ふ 元正  
從一位

松平下村 忠久 本氏前田氏後肥前守に改む申納之  
忠久の子實子實子實子の男 参藏に任し給ふ 元正  
從一位

松平右衛門 忠宣 本氏前田氏後肥前守に改む申納之  
忠宣の子實子實子實子の男 参藏に任し給ふ 元正  
從一位

松平茂房 忠政 本氏前田氏後肥前守に改む申納之  
忠政の子實子實子實子の男 参藏に任し給ふ 元正  
從一位

松平茂房 少将 本氏前田氏後肥前守に改む申納之  
少将の子實子實子實子の男 参藏に任し給ふ 元正  
從一位





任次 既酒井推樂氏忠世 河内守 忠男 任次下子叙す 元後 土井

大炊氏利勝 小幡男 任次下子叙す 元後 松平周防守康重

中氏松平松平 用防守忠次男 任次下子叙す 元後 松平大和守忠基 中國之秀 唐男 任次下子叙す

元後 有馬玄蕃政冬氏 任次下子叙す 元後 松平河内守定行

中氏久松松平 源俊守忠次男 任次下子叙す 元後 松平土佐守忠久 中朝之秀 唐男

任次下子叙す 元後 松平式部大輔忠次 中氏松平松平 出羽守忠政男 任次下子叙す 元後

松平右京守政保 中氏松平松平 三尾守忠政男 任次下子叙す 元後 生駒古法守元俊

元後 任次下子叙す 元後 南朝任次守利直 大徳安 忠男

任次下子叙す 元後 寺河志摩守廣言 唐男 任次下子叙す 元後

水井日向守勝成 唐男 任次下子叙す 元後 松平丹波守康長 唐男

任次下子叙す 元後 友黨大守元次 和男 任次下子叙す 元後 永井信忠

尚政 大直安 忠男 任次下子叙す 元後 井上正平 正統 忠男 任次下子叙す 元後

星田勘解由長良 和男 任次下子叙す 甲斐守子任す 忠田

友之清言政 和男 任次下子叙す 东市正子任す 松平忠高

輝貞 中氏松平松平 三尾守忠政男 任次下子叙す 右室守子任す 松平刑部定頼

中氏松平松平 三尾守忠政男 任次下子叙す 河内守子任す 父河内守源信 忠男 小出吉親

和男 任次下子叙す 對馬守子任す 秋月種春 和男 任次下子叙す

任次下子叙す 長門守子任す 木下利常 和男 任次下子叙す 松平信子任す

任次下子叙す 福恒平右衛門守保 和男 任次下子叙す 松平信子任す

任次下子叙す 大久保正房及忠 和男 任次下子叙す 玄蕃元子任す

指田後七郎重忠平太尉 辰之位下小叙一若狭守之任す

久留島通春左衛門 辰之位下小叙一丹波守之任す 赤多見

八房左衛門勝重左衛門 辰之位下小叙一若狭守之任す 三宅

康盛我孫子 辰之位下小叙一若狭守之任す 有馬康純右兵衛

辰之位下小叙一内親王之任す 吉木源次郎重忠右兵衛

辰之位下小叙一甲斐守之任す 播磨守 辰之位下小叙一

叙一采女正之任す 秋田季信左衛門 辰之位下小叙一

算入正之任す 於京市十郎正久左衛門 辰之位下小叙一

越後守之任す 後内院 兼一左衛門 辰之位下小叙一

九月二日松平小次郎重吉卒す

同日天長長位 在余をまゝ 中宮之附屬に侍す

食福千石を加賜のせしむ 辰之位下 叙一 去る前守之任す

同十七年

余をまゝ

禁裏より多仕付 未だ七百石を加賜せしむ

同六日二條の城より 行幸前晚より 黎明より 細雨降り

酒陰晴外の晴より及んで 夜陰より 行幸の末より

辻固めの役を定めらる 仁足乃 御門より 御門より 六町

一段御門より 二條乃 城東の御門 隙小より 十七町九段三間

合二十町九間 辻固めの烏帽子 总持大名より 課せしむ 是を

及す 此地の多しに依りて 熱門の内を駿河正相忠長尾張正相

義直紀伊正相頼宣水戸黄門頼房の如く人小乞を

固むに列藩次を乱し以て威威最素也小路毎より次地

随長力を備ふ定を固む各家人をも具して古築地の

外小伺候一門くを發請す兼日より乞を定らる

行幸の目録大名過國ノ兼日より信守ノ軍

二幸引

駿河大納言

尾張大納言

紀伊大納言

水戸中納言

松平筑前守

松平清康守

松平陸奥守

松平伊豫守

松平下野守

松平宮内少輔

松平長門守

細川越中守

佐竹右京守

木村貞作守

中納言左衛門守

京極若狭守

上杉潭正少將

松平新太衛

京極丹波守

松平河波守

淺井但馬守

加藤肥後守

堀内信直守

堀尾山城守

松平土佐守

友黨祐兵衛守

松平右衛門作

加藤左馬助

寺沢志麻守

有馬玄蕃守

稻葉左衛門

南郡信直守

立花元守

伊達左衛門

九鬼長門守

松平山城守

松平北條守

本多甲斐守

志田伊兵衛守

池永左馬介

一柳監物

松浦肥前守

有馬左衛門

加夜出羽守

伊達修理亮

宗對馬守

古田左衛門

津川内膳正

石川左衛門

小出大和守

松平丹波守

井上左平次

秋田右京允

永井信忠守

淺井兼女正

丹羽之部左衛門

松平出羽守

酒井源次守

安友右京允

致云固の者貳千六百十二人 三方石守貳人宛

井伊掃部頭

本多貞徳守

小笠原右衛門

酒井雅樂頭

大井大和守

松平内膳守

水野日向守

松平式部左衛門

堀丹後守

牧野源次守

本多伊勢守

戸田左門

長谷川内膳正

松平周防守

烏帽子者百五十七人 三方石守貳人宛

毛利大和守

堀坂淡路守

松倉左衛門

京極修理亮

松平大和守

金森出雲守

織田刑部左衛門

小出信忠守

松平石見守

松平右京左衛門

保科肥後守

木下右衛門

山崎甲斐守

秋月長門守

鴻津右京左衛門

松平右衛門

本多大隅守

大久保新十郎

木下左衛門

毛利伊勢守

大村左衛門

戸川肥後守	松平右七郎	栗山如賀守
本多因幡守	松平左衛門	土方掃部頭
別不豊後守	相良右三衛門	土方丹後守
右田原侍部守	日根北織部守	織田河内守
平忠左衛門	織田丹後守	織田武藏守
小出大隅守	池田越前守	三浦右馬介
立花左衛門	前田大和守	建部三十郎
伊东丹後守	市橋伊豆守	久留右六市
栗山刑部守	栗山左衛門	三宅越後守
細川左衛門	大津淡路守	

人数六百五十二人 是百石以上之人

本多左衛門	片桐出雲守	菅沼織部守
本多下総守	杉原伯耆守	水野真人守
戸田因幡守	長谷川武藏守	片桐左衛門
谷出羽守	海老伯耆守	海老伊豆守
吉川氏親守	吉川信康守	松平右衛門
内宿伊豆守	稻葉丹後守	吉川大光守
板倉内膳守	酒井河内守	京極左衛門
秋元但馬守	松平越中守	板倉周防守

林下裏にッ定の御門より二條の御城東の

御門浪子五々二十四町九間右に教子  
百に十九間

人教之子三百二十七人 幸乃在三人宛

行幸乃没志子六百六十三人 幸乃在十一人

小治常乃人教 十乃在分々十人

小治に十一箇所拾万石より上三十人宛供奉し

茲公家騎馬乃就歸悉く去家より調進す

寛永三寅年

九月六日 行幸

大殿祭

儲乃御所より行幸の前夜 但九月六日

系主 神祇権少副  
小中長友志 是を勤む

役者

主殿寮 掌物を供

木工寮 結灯巻と鉦等

掃部寮 小中五々三五子厚三枚と没志

行幸に先づ供女中宛

長柄 七十丁 釣輿 八十丁

包輿 六十九丁 布衣 六十五人

烏帽子总 二百四十人 十徳总 千百十人

右是也 中宮正供女中礼の輿副并給輿丁也

具次

長柄 三十八丁 釣輿 四十七丁

包輿 二十六丁 布衣 四十人

烏帽子总 百十人 十徳总 六百十人

右是也 女院正供女中礼の輿副并給輿丁也

具次

長柄 四十七丁 釣輿 四十七丁

包輿 三十六丁 布衣 四十六丁

烏帽子总 百五十人 十徳总 七百四十人

右是也

棟中正供女中礼の輿副并給輿丁也廿内かき前後より  
朱後ノ礼をと云く

中宮正略

供奉行列

武家正略右又並く二十頁を定りし各末帯一百帖  
騎馬二行





小槻忠利 主生極扇

實子 小倉侍從

隆術 四系侍從

秀雄 舟橋式部補

通純 中院侍從

泰重 高田中務補

公勝朝臣 三条西侍從

永孝朝臣 右衛門督

友東通概 陸奥守朝臣

實村 攝子侍從

雅昭 九多井侍從

有純 六系少將

之總 山科少將

之繼 近衛守中務補

經廣 勅修寺承

通前朝臣 久我中將

一仍

右大禪室桐 柳原守桐業元

中宮權右史中院中納言通村

日中納言 定慶

廣橋大納言 總光

日中納言 定廣

日中納言 資勝

中宮大史 實條

内大臣 二系康通

一日晴

下襦袢唐織物 菰草地紋 菱散紋 袷告

表袴唐織物 菰草紋 窠雲

轆唐織物 地紋 菱散 每甲

右衣後在右の侍奉之地下の傘持十人白丁六人詠古史

二人騎馬隨身一人騎馬后側一人副舍人武人布衣馬副

二人下福隨身歩行退却人

中宮法方

左 二行  
雅胤朝臣 死後葬於

右  
為頼朝臣 在泉中坊

御車

右御車前後左右の侍者半同四人

一人の童形二人は鞍持一人は  
掛玉持

御車副八人 福冠舎人二人 福冠退紅二人

左 二行

右

少進天押是等和名後京右位

大揚殿後等後京右位

推し進小槻亮昭

大属中京藏之

小属三橋亮玄

右又人将衣紋約

下親衣 唐後

指貫 日

御隨身

左

右

柳生又右衛門

小川新九郎

墨我平左衛門

三木九三郎

花井左右衛門

久永源左衛門

右六人 武家より甚ハき者 冠左の 福文徳院 衣唐後 唐後

袖單

赤地  
合欄

舟大帷袴 唐後 石帯 線鞋

御車旁に控馬

系御衣等

沙かゝの口迄の法門を

北へ折返親町をぬり行堀河を南へ行二条河原舟の東へ

入る女より南口迄の門外より控馬より御車より御車

少を大小属小法を更々正大花少浦板倉内膳正杖元  
 但馬少松平共々前少所部所侍候久貝因幡少津尾  
 刑部少捕等共々を役少沙車少控下下沙路少  
 沙原風沙元帳を立る先立く桑原の女房出途少  
 奥の陣 入御供奉の公令中門の内東北西  
 列立て致言座を殿上人等中門の外少留路將亮  
 権亮大を等少沙車少随手少後入新沙車少中門の  
 外少の方少立不厩橋侍候侍候板倉内膳  
 酒井澄波少井上重斗少水井信徳少中門外少  
 候して法殿を奉候

女院御幸 申度侍候乃次同列

供奉行列

右 二行

右

加茂頼久

友京昌徳

卜部兼室

茂京元知

卜部兼判

加茂説久

右六人非花人

定付 右系上更

安部春吉 兼指

真亮 兼取

有村 兼指 兼取

雅陳 伯侍候

奥之記 兼取侍候

李福 喜进侍从

公久 花圆侍从

忠定 清水谷侍从

隆朝 梯首侍从

经敦朝臣 下松内侍从

公信朝臣 德大寺中书

公崇 阿世侍从

隆经 仲路侍从

公根 小倉侍从

基教 川端侍从

遂长 弘治城小内侍

长经朝臣 东坊城小内侍

一仍

右内侍 永慶

花山院宰相中侍 定存

口过中纳言 幸造

右宰相 水原氏殿

阿世中纳言 实成

右大将 久米大内侍

一日

下袷唐織物 袴方地紋龜甲散紋糸

表袴唐織物 袴方地紋粟藁

襪唐織物 袴方地紋菱紋蝶

右前後左右侍奉先心地下の軍持八人白丁六人

大吏二人 袴馬上二福隨身二人 袴馬下二福隨身二人 袴副

舎人二人 布衣二人 馬副二人 福冠退紅

右大臣 一条系題

下袷唐織物 袴方地紋粟藁

表袴唐織物 袴方地紋粟藁

右亦後乃供奉先心地下乃傘持十人行但一白丁  
六人法衣三人騎者何人既舍人一人龍一人上肩  
隨身口人騎又佐持何人下福隨身口人馬副四人退紅

女院御方

御車

右御車乃亦後乃右の心供奉沙壹古次六人行長若侍

牛飼口人是人の小産取多人の出欄を御副八人福符を典代盛勝

廳安紀字雜色口人舍人三人仁許人

後務一列

西園寺大納言益

左御方大尉中京法典

右次長多古徳将長白唐後

女御乃御車中宮御路乃次也放半本常丁公御後上令

他法同前但一御車より半常乃後別人是を御し其後

御車中門の外 中宮の御車乃雨下是を云ふ

女院御車乃次回別

供奉行列

左

右

友系元知

鴨 祐 位

秦公 度

秦 親 房

加茂 誠平

若田 位 重

右六人非就人

陸備 七条侍從

宗權 若波侍從

宗保 木下侍從

基秀 川越侍從

位孝 桓口侍從

为方 朝臣 夏系中納

康胤 朝臣 堀川建方

清原實忠 清義人

基定 若羽院侍從

通式 久世侍從

公系 攝路侍從

隆宗 北尾侍從

時真 朝臣 系侍從

孝直 朝臣 何得武藏守

一行

西園寺宰相中納實情

清原寺中納之共孝

右大将 藤原教平

一日情

下袍衣 唐織物 黄紋唐織經系

表袴 唐織物 紋棠敷

右前後左右乃供奉先口地下乃傘持八人白丁六人志士

二人袴口上福隨身二人 袴口下福隨身二人 出右副舍人

二人布衣二人右側二人退紅

非宮御方

御車

右御車乃前後左右乃西供奉半同口人 寺人八重祓一八出據也 若寺人八出據也

法車副八人 福舍人二人 張退紅人

以次出車六輛

一車

右車前後左右の供侍牛飼二人 二頭 牛飼 白丁四人 車副

二人 布衣二人 退紅一人 六方各供奉 同前

判官 務子左衛門尉大石正法

二車

判官 務子左衛門尉大石正法

右二車乃由供車 中宮之女中十五人 是下等子

三車

判官 務子左衛門尉大石正法

四車

判官 務子左衛門尉大石正法 看替長形一使一腰乞

五車

判官 務子左衛門尉大石正法

六車

判官 務子左衛門尉大石正法

下水面二行

友系通武 正格集云

友系光益速見七門子

友系宗利 山形左衛門

友系重尚 世續甲斐守

友原直益 速水右衛門

友原通春 川路左衛門

友原栄益 速見左衛門

友原清世 長平左衛門

友原千好 大内右衛門

姫宮乃御車 女院乃次也此法共小管同方

入御乃後先の中又乃御車南の口は乃門外を出しゆ

車屋より入御小 女院御車次身より是より入御供乃車六

友の出車是より先より女院御車参り乃より入御出車六友

姫宮御車乃次也法城東門外又於の車放し牽但一

武形白丁おかしや勝守の元門外小控より御車の乃

御車次身南の口は乃門の外より入御 廿七 女院御車

乃七も控より下は車参り乃中乃末より元女 廿八 御車

之御車より六車より御車乃志次身より車屋より入

又中より控より兼る御車を建てる事各長控化二十又同局

毎小豆夜の衣類を御車に具置子以下より御車御車

羅焼おかしを御車に具置を御車に具置を御車に具置

御車御車御車御車御車御車御車御車御車御車御車

將軍御車御車御車御車御車御車御車御車御車御車

御車御車御車御車御車御車御車御車御車御車

友原直益 速見左衛門

友原氏成 長平左衛門

友原清田 長平丹波守

源元政 長平伊豆守



行列等行場同情等文殊寺在奥河内勘在奥河内勘  
指恒若狭寺三枝宗正席加之化民部少補水神監物波色  
才口部寺之修互股正今村傳口部永口傳在奥長谷川  
四部寺河場之右邊

雜文十人二行 左右烏帽子上下

行列

供奉乃武士若長刀持烏帽子者了副守了傘持是也  
百具上

一行 板倉周防寺

二行 右

居間寺之人 袴子

伊麻倉人之人

松平相泉寺

小笠原右通寺

松平周防寺

本多下総寺

松平河内寺

松平對馬寺

加茂式部少輔

本多甲斐寺

居間寺之人 袴子

伊麻倉人之人

松平山城寺

松平龍溪寺

本多伊豫寺

牧井駿河寺

松平冬後寺

友堂大學院

有馬式部少輔

水井隼人之心

是部内膳正	浅井康女正
菅沼織部正	戸田左門
南部山城守	京極修隆左支
隅守紀伊守	寺沢玄庫正
松平加賀守	水北紀伊守
松平若狭守	松平石通左支
水北和泉守	戸田末女正
赤田大和守	堀玄祐右衛門
合泰出雲守	堀丹後守
是部貞徳守	三宅大膳大支

是田甲斐守	是田市正
畠山長門守	織田丹後守
赤田河内守	秋田河内守
杉原伯耆守	溝口伯耆守
織田越後守	織田貞徳守
一柳監物	九鬼長門守
松平石見守	大田宗佑前守
松浦肥前守	伊东修理左支
池田佑前守	小出大和守
中川内膳正	石門左衛門

住永石馬助

稻葉淡路守

吉木甲斐守

加夜出雲守

木下右衛門左衛門

作久石大膳亮

毛利伊勢守

片桐石見守

谷出羽守

平北遠江守

遠夜伊勢守

本多因幡守

片桐主膳守

山崎甲斐守

小出對馬守

桐原石見守

木下左内少輔

片桐出雲守

清津右馬頭

市橋伊豆守

分利右京亮

長谷川式部少輔

伊夜若狭守

竹中丹波守

蔚田権左衛門

一柳貞信守

又橋淡路守

栗山修理亮

一柳丹波守

松倉長門守

本多花隈守

池田出雲守

戸川玄伯守

戸川肥前守

五万主膳守

作久間信濃守

溝口土雲守

小出大隅守

遠夜但馬守

相良美濃守

溝口伊豆守

栗山加賀守

堀田玄毅少輔

井上淡路守

秋月長門守

石川伊豆守

昭叔淡路守

横山土佐守

竹中兼女守

那須英清守

関玄部少輔

昭叔之水守

細川玄蕃守

竹中筑後守

有馬義人

小堀遠江守

日根北織部守

内庭共前守

三浦監物

水沖河内守

土方掃部頭

仙石大和守

川勝佐濃守

朽木多經少輔

北平伊豆守

高力大進大浦

阿部修理亮

本多能也守

成瀬仁夏守

堀市守

佐久間河内守

三好越後守

如之代氏部少輔

堀園播磨守

京極玄暲守

土屋氏部少輔

井上河内守

坂堂右衛門尉

本多邦監

田中主殿頭

神尾文内少輔

小笠原宗茂

酒井正徳

清田刑部少輔

作樂右京亮

松平定頼

服部主蕃

池田重利

河部左衛門

内宿伊勢守

三浦元康

水野梅津

秋田草人

小笠原忠雲

高林河内

酒井如賀

新井氏能

松平伊豆

安房右京亮

水井信徳

井上主斗

稻葉丹後

松平越中

酒井讃岐

一行

依倉侍従

厩橋侍従

左

二行

右

番頭四人

番頭四人

右八人  
信帽子白旗  
但平絹  
夜平絹共五裏之

常力 二行

三好勝左衛門

徳物右衛門

小条久次郎

長谷徳左衛門





水戸中納之頼房

右 供事 同前法 在 武人 騎馬

左 村瀬 虎馬 右 中山 侍 前

仙 卷 中 納 之

加 須 中 納 之

瀧 磨 中 納 之

越 前 宰 相

備 前 宰 相

會 津 宰 相

右 二 行 右

英 作 中 將

秋 田 中 將

長 門 少 將

本 前 少 將

若 狭 少 將

仙 卷 少 將

米 沢 少 將

周 幡 少 將

本 浦 宰 相

白 川 宰 相

吉 根 少 將

久 保 侍 長

柳 川 侍 長

白 林 侍 長

八 井 侍 長

山 崎 侍 長

上 山 侍 長

阿 波 侍 長

丹 後 侍 長

伊 豆 侍 長



右中將右將侍候九十三人

安藝侍候 對馬侍候

肥後侍候 出雲侍候

土佐侍候 筑前侍候

肥前侍候 松江侍候

肥後侍候 長門侍候

右 二行 右

松平大和守 松平土佐守

松平右京右衛門 有馬玄蕃守

生駒右衛門 南部信直守

寺沢忠房守 水井日向守

松平源次守 松平丹波守

松平式部左衛門

右口下拾五人

二條沙殿 御車方より

御宗車法衣束帯一日晴法下籠衣紅二重織物

法紋葵之丸白表法袴打系唐織

法紋窠敷

禁中 西口より御門の内より

下御付教より方より 関白以下座立

下運接一 一様年々 清涼殿の南階小  
昇るせり 一 東南の縁をさかひ 一 少路の  
清涼日 一 多し 一 少路開礼中 柱が  
西小 一 少路意度二部 一 少路後在 初秋  
平書ノ終

九月廿 行幸

前施後宗の供中 各一日 晴未常 袍等常の  
冬後 一 少路唐織を用ひ 一 中納言下 一 縫物式を  
用ひ

行幸の初 一 少路南殿の南階子と上け 一 圓白法印智

上御 一条右大臣 陣 おぼろ 一 正作 すまの 後首 くま 行

織 ひき 下中納言 一 扇法 目と 儀 お 納役 と 儀 と 儀 と 儀

当の公 ひと 一 正親 町 一 三條 中納言 一 旗 本 一 寺 時

主 上南殿 一 出御 少 末 常 少 袍 櫛 深 御 下 袍 衣 蘇

御 引 社 本 紅 表 少 袴 白 裳 儀 一 御 殿 長 櫛 御 後 南 殿

一 少 衣 是 乃 布 冠 圓 白 巾 裾 一 一 月 侍 大 納 言 侍 劍 墨

一 少 持 一 院 湯 の 以 願 義 友 系 友 閑 是 と 勤 じ 團 司 夫 云 云

一 少 今 後 是 一 少 を 果 せ 一 少 不 治 養 少 納 一 少 之 為 遍 朝 臣 是

一 少 假 是 を 奏 上 一

一 少 風 輦 階 間 一 少 左 右 次 於 右 副 近 心 院 一 少 年 相 中 初 定 好

劍璽を収む

鳳杖車より 入御の後同白西裾を五々入らる中門の  
外より北へ入北有御儀作也乃 出御乃南の東の  
洞院大路を北へ行正親町小路を西へ行堀河大路を  
南へ行二條次第より 入御

行幸次第先二行

左

伶人 廿一人

大鼓 白丁三人  
是を拵

証鼓 白丁二人  
是を拵

右

伶人 廿一人

大鼓 白丁十人  
是を拵

証鼓 白丁二人  
是を拵

烏帽子 廿二人  
赤袍袴

白丁 二十二人

傘持 二十二人

戸屋主 烏帽子布直密者一人

掃籠寮 烏帽子赤袍者一人

内苑寮 三人 衣裳上下同

御道具

沙汰子 白丁廿一人 是を拵

造代若 白丁廿一人 是を拵

布造若 白丁廿一人 是を拵

烏帽子 廿二人  
赤袍袴

白丁 二十二人

傘持 二十二人

涉草鞋 白丁三人 是を持

旧靴 白丁三人 是を持

文 杖 白丁一人 是を持

日 旗 札 白丁一人

内 卷 盤 白丁二人 持

卷 盤 之 脚 白丁二人 是を持

炮 卷 二本 白丁二人 是を持

步 度 二本 白丁二人 是を持

出 納 藏 忠 胡 后 骑 馬

内 苑 周 備 古 步 行

涉 苑 民 新 坐

涉 苑 文 内 坐

涉 苑 正 坐

行 幸 未 刻 以 列 二 行

集 人 兵 士 十 人

集 人 兵 士 十 人

右 十 人 身 甲 衣 袴 袴 鞋 也 持

一 行

集 人 正 骑 馬 烏 帽 子 袴 衣 正 总 下 袷 子

左 侍 府

厨 昌 弘 骑 馬

作共綱 法宗寺務司

在法務府

依定順 中門務司

少納言

為通朝臣 公條

公卿

左衛門督 西洞院時直

右大辨宰相 柳原業元

中文檢右史 中尾重村

日北中納言 光受

法宗寺中納言 共房

日北中納言 實敬

中門中納言 實綱

日北中納言 秀德

今出川大納言 宣季

西園寺大納言 公成

廣橋大納言 經光

日北新大納言 光廣

中宮大夫 三原西實條

三條大納言 將法祐公廣

内大臣

右供奉前子久也

右大臣

右供奉前子久也

二行

右

右大臣

右

右大臣

右三人乃供奉前子久也

次右大臣

次右大臣

雅胤朝臣在死号丹中

之親朝臣中山中

季吉朝臣在延世中

重秀朝臣在延世中

庸胤朝臣在延世中

为尚冷泉少

系俊水在延世中

鳳林車内在延世中右康持沙在延世中菱鞋柳在延世中若子在延世中

口府駕輿丁在延世中右進府沙在延世中人在延世中下度在延世中之在延世中椽

熊彦在延世中以上白張在延世中在延世中一鳳林車在延世中之在延世中昇在延世中

御後 二行

右

右

嗣良朝臣在延世中

子有在延世中

为桓朝臣在延世中

公系在延世中

親明朝臣 少島少於 去 經 山科少於

基音朝臣 園以中於

一 行

北山院宰相中將 定好

西園寺宰相中將 實昭

職事 二行

左

經廣 初修寺長

安信春吉 念格

友系通親 臨路

右

小槻忠利 格痛

法系賢忠

新田信次

友系元辰

如 茂 以 久

鴨 祐 信

友系俊祇

秦 元 純

一 行

右 佐 府

尉 生 行

佐 經 房 一 万 屋 小 路

右 邊 府

佐 永 持 朝 臣 念 右 邊

法 月 行 列

右 二引 右

陳友人掃田 陳友人戶鴻

右二人步引六位年指袍闕ケツ 順エキ 常劍ツギ

大外記中京作文 左史左務生亮

白丁十人 白丁十人 白丁十人

少外記中藏 右史莫芳 伴友志

持少外記中友 左史亮盛 之後秀勝

持少外記中友 史中存昌 内監勝康

持少外記中利 右友孝氏房 之後藏則

史中引時 右友孝氏春 之後以賢者

史中生定 右友常永昌 戶尾正清

右使生定 右使亮行 修理藏源次

大舍人生定 大就省 左寮

山倉康岳 清土田人 仁人三人

使部生人 使部四人 大工五人

法司白丁 和馬十人 苑三引

捕白丁 金新 後子 在三引

園白 車 迫清右 大后 位者

小籠 衣唐 織物 地黃 紋菱

系袴 唐織 物 地黃 紋葉 菱





將軍家本階より入りし

主上 入所 下所の付圓白所裾を二所後より  
退き西の方より侍り

主上 暫く南面す 之所

大相圓 將軍家東南の縁を歴給ひて入所  
所より

主上 所未四月より幕中へ 入所

大相圓 將軍家本よりとて東南の縁を歴給ひて

入所 既指侍候依念侍候板倉因防侍候酒井

源次郎井とて身次水井信法も内外を不知り

所、所、所、所

徳の所不南の山上檀の間

一 所 床の押板 法文巻 御信 所 礎

一 所 遠板 六所の山香箱

中 山板 浪の山火 元 浪の六角の蓋より

一 所 板の下押板 所 手 礎 二一面

一 南 面 所 屏 法 二 所 柳子 虎

一 所 床 東 面 所 欄 是 所

中 所 上 候 の 所

一 西 南 の 角 所 衣 桁 中 衣 を 着 たり



一 東南の角 二階板 沙羅丹 瓦 瓦礫 弁位

一 沙疔 沙襦

一 沙天井 無風治

一 沙廊下 代階の瓦 蛇籠

沙休息の瓦

一 沙書院の押板 瓦 礎 弁位 巾着帯

一 沙床の押板 金の孔雀の瓦 香炉 浪の瓦 子居る

一 沙遠板 瓦 香炉 弁位の瓦 子居る

推しの瓦 香合 一對 堆来六角の瓦 子居る 沈沙枕 一對

一 東北の角 浪の瓦 巾着 白布の巾着 二行を短る

一 沙疔 東西 御 沙疔の上 瓦 瓦礫 瓦

沙廣間の傍

一 沙上櫃の瓦 床 二幅 對 牧 浪 瓦 瓦礫 拾得 右 虎

一 沙床の押板

中 花梨乃 打 卓 浪の瓦 花瓶

浪の沙 梗 瓦 浪の瓦 香炉 獅子

浪の沙 香合 菱 浪の瓦 香北の瓦

瓦 脇 花梨の 卓 浪の花 瓶 瓦 對

一 下櫃の瓦 子 梨 地 瓦 瓦礫 瓦 水指 瓦 水滴 瓦 蓋 瓦 瓦

皆 瓦 合

右乃法勝悉く涉進上也

依り所前時の御帳

御度の事を左記に御帳を設け

主上 出所 津東衣 南西

大相廻 將軍家御帳長押し内は兼く内所

二を設け南力の黄子階の東列より御度者関白御帳

右大所 一条兼通 西園寺大納言 と道 今出川大納言 宣季

左大將 有子 兼平 右大將 九条忠家 晴の御帳以下

大相廻 將軍家以下各御帳を扱ひ

大相廻御帳 柳宗宰相

將軍家御帳 中山以下

関白御帳 御修寺長公の御帳

少将 大田中務杯砂一通

大相廻 將軍家関白以下廻流手後

主上御帳 御帳御帳 有子左大將以下 柳宗

宰相為九宰相右徳智有以中於十平年白

入御 右下度より退去

右晴の御帳内御司 三つ橋は定見を供中

内々御司

初御

主上御前一女院御前二侍官御前

一 盃教三

主上御盃

大相廻 女院御盃

將軍家 侍官御盃

振宮女二孫文姫但由西切かきふしふしの御文ふし

二 献 御盃教目

主上御盃

將軍家 女院御盃

大相廻 侍官御盃

將軍家

三 献

主上御盃

大相廻 女院御盃

將軍家 侍官御盃

大相廻

七乃侍盃 侍官御盃

内々乃侍盃

主上御盃を盃に懸し意西酒子酒瓶子酒提子流の酒は具大

悉く其令をいしく是を割て中宮 女院也帳其令  
白浪と云ふ是を交刺せり 斯又 女二の文也帳亦同  
在帳より也右の也帳の 乃其悉く後りよを  
主上御帳方のより表帳を取食因防侍候  
中文 女院 斯又 女二の文也帳方のより 殿持  
侍候伊丹掃磨也

將軍家より云 侍有侍合侍候は平在御事  
大相廻り云 侍有女中上方上下右の中より  
同晚 行幸供有乃役人九百三十餘人衆人衆人  
七八三乃懸侍を平打發志公家元成脱逃或外執百余人

懸侍同和但三三力是方人衆も依り替り也

七日行幸の翌日使晴 朝御帳内侍候

將軍家御物當り陣列手候乃侍所東南乃  
御帳を御

一 白浪 三ノ雨 是二十日是を載り七言責子小列也

一 御帳 二百紙 長捲二十日是を合巻綴り列也帳の内外  
綴り侍候

兼 是等令帳を用ひ侍候と云ふ御所々々の様を  
以て之を是を信ひ是を載り候所の内より云々

一 沈木一本

一 襦袢百卷 是等是を長南を押の内より列也

一 紀原二百斤巻 是を積襦袢の次より

一 玳瑁二十枚 是を後おの方より

一 麝香入り巻 可小是を移す 玳瑁の次より

刻限まむ

主上 出陣法 陣白の上檀まはる

將軍の底のより 上檀まはる 上檀の底まはる

は一礼 陣白 陣出

主上 入陣

同日

將軍の家より 申さる 却せし 申さる 但し内へ

一 白浪 七支 一 沙版 五十枚

一 沉香 七支 一 糸 百斤

一 緋華線 五十巻 一 白綾子 五十巻

一 麝香 二斤

同日

將軍の家より 女院の御せし 申さる 但し内へ

一 白浪 七支 一 沙版 五十枚

一 沉香 七支 一 紅糸 百斤

一 緋華線 五十巻 一 白綾子 五十巻

一 麝香 七斤

同日



將軍家より 女一丈五寸餘せしむるは物但し内々

一白浪 三寸五 一沙股 三十尺

一令禰 十卷 一黄令云百斤 但一斤黄令一歩をたして是を制し難く候なり

一白浪又百斤 同本

同日

將軍家より 女二の丈五寸餘せしむるは物但し内々

一白浪 二寸五 一沙股 二十尺

一令禰 十卷 一黄令云百斤 但一斤黄令一歩をたして是を制し難く候なり

一白浪 又百斤 同本

宮元掾家元先友の大臣法口取元法と云元不沙律

西後と云は出は美法大元元法と云は下不沙律何儀と云

刻よむて舞 沙律

主上 出所階の間は廊の際に兼て沙律一五寸禰を

設る所の間

中宮 女院 沙律一五寸禰禰は四方 推云女三丈

沙律禰は東の間

大相国 將軍家沙律は屏風をたして是を圍ふ同本

東の右親王元口法元初友の大臣元の度同白心下公は

後上人縁より年縁よむと別法を兼るる高麗を安んず

樂いさ

舞是

何程藏多引して是と構ふ事終ら  
是と假

帷骨 生奈是と多引也

帷霞 大苑有是と多引也及上人の居る中其後子まつて

是と霞ふ右楽人の帷を紐布を引て是と霞ふ

紅白後の幕敷を引て四方に是と霞ふ

先樂人 中門のおふ控へ之度の礼声は次右次右在る

後次次ふ吹調子平調大音声其又言樂次右在る

小右と中右が調良相長以右中右が音調長中右と令

樂座の前ふ言右右の樂人舞人座中に列し是を被

舞く事ふ出座不入次樂人本語を徑り過く

次右振祥 拍近元

次右振祥 秦系秋

次万来樂

拍近元 拍友安 拍近盛

拍と夢 拍友久 拍近朝

次延新樂

秦系秋 秦系久 秦廣元

多忠行 多忠貞 多忠常

次と海波

序倫老

通純 中院  
侍辰

雅昭 院  
侍辰

忠勝古系

宗朝古系

破去海波

公理古系

时良西國院

鞠庭闕掖袍下就衣紅系表袴紅系卷纓冠并絃  
此方乃系終平終系鞋

去海波二人

兼拵頭

桓代三四人舞人六人以上早十人也殿上人四十人  
伶人十二人步隨才八人

殿上人

堀川中將康胤朝臣

桓代音

弓臺朝臣

冷泉中將為朝臣

同

刑部少輔孝治朝臣

桓代音

同

小島少將親政朝臣

同

源少將重秀朝臣

同

平松少將時具朝臣

同

極口少將信孝

桓代音

同

師小路少將公宗

六条少將方純

朽木信長宗保

赤園信長基教

龍波信長宗將

持明院侍從基定

裏辻侍從季福

深装束 左右侍人十二人

秦兼定 ヲホフ 大神宗福 秦廣賴

多忠志 安倍季勝 多忠行

秦昌長 多忠行 秦兼次

多忠清 奏廣壽 多忠定

就装束 侍隨所八人

下免地武村 源武定 秦吉武

源元良

御所侍 御筆

簾中

左新入 伏見貞信親王 琵琶

彈正文 言以齊祐親王

侍見御所 伏見天皇 琵琶

養子总座

圓白 右大臣位守 以筆 中山从中将元親 相右 經持系

右大臣 一条兼近 以筆 左坊城長維嗣 經持系

右圓白 一条兼美 以筆 月

内大臣 以筆 山苗 右長維嗣 經持系

右人将

苗

右人将

九条大納言  
大納言

苗

比过中納言李德

草

西坊城陸信持系

西宮寺宰相仲如安徳公

琵琶

右馬督西洞院时忠

草葉

友上人

言信山科右将

草

隆朝板前右将

苗

忠定法峯右将

草 龍人法持系

通武久世右将

同

公根小倉右将

琵琶

公次花園右将

草

左村鷹尾氏右将

草葉

此の末より右板を撰り糸疋を友友上人の疋  
同方砌より右板を撰り糸疋を友友地下楽人の疋

地下楽人

柏迫直高

柏直高 同

柏元朝 同

柏友久 同

柏迫元高

柏友隆 同

柏迫長 同

友信秋 同

物色次華策 物迫光日

物迫夢日

物色江 鞠報 物迫益

物迫心 証報

垣代次身中 門は入 舞人打須知 不信通 應中

能在大  
倫云々

尚 涉 疔 不 東 西 他 痛 倫云々 去海彼舞人云々 序

舞人在 為 漏 内 次 へ 行 年 立 次 舞 早 白 舞 人 打

須知 下 信 前 行 上福前は有  
下福後は有

次 麦 早

秦 葉 秋

秦 葉 貞

秦 廣 光

秦 葉 護

次 陵 五

物 迫 元

舞 終 刻 限 涉 疔 間 西 の 方

衣 菊 袴 衣 袴 推 か ぎ る 関 白 色 を 考 へ 屏 の 下 へ 進 き 是 を 取

り 舞 人 へ 進 ぶ 舞 人 へ 進 ぶ 舞 人 へ 進 ぶ 舞 人 へ 進 ぶ 舞 人 へ 進 ぶ

次 納 獲 利

多 志 辰

多 志 清

舞 終 刻 限 太 大 極 色 を 考 へ 階 下 控 へ 舞 人 へ 進 ぶ

舞 人 へ 進 ぶ 舞 人 へ 進 ぶ 舞 人 へ 進 ぶ 舞 人 へ 進 ぶ 舞 人 へ 進 ぶ

内 大 臣 へ 進 ぶ 舞 人 へ 進 ぶ 舞 人 へ 進 ぶ 舞 人 へ 進 ぶ 舞 人 へ 進 ぶ

退出の音声

長慶子

沢不収人爰法の世を以て次

入所 沢不収福より退出

右乃伶人

大神宗法 日

柏迫直 日

柏直直 日

柏直久 日

多忠俊 日

多忠直 日

柏直隆 日

柏直長 日

光光 日

柏直次 日

柏直光 日

安倍秀 日

柏直弘 日

柏直益 日

柏直正 日

右乃伶人

大神宗福 日

秦昌辰 日

秦兼政 日

秦昌秀 日

安倍秀勝 日

秦兼次 日

秦兼法 日

秦兼元 日

安倍秀守 日

多忠志 日

秦昌忠 日

秦廣光 日

秦兼佐 日

証報

今度就衣仕装束御装束悉く新調也右太の樂元等  
傾御の慢を以て大文行の後御後等悉く一新之  
是地爰に方々慢を以て御終くは内は控く七五三の  
此帳之元柄取元新装束の大信小廣昌上檀下より不

於て然付有る七之三令銀の胎形也遂に胎令銀の  
卷の物欠素をさるる

右 産

八條文 伏見文 八條若文 伏見若文

西園寺 亦右大長 花山院 亦右大長

右 産

関白 通傳大長 一条衣大長 言松文 高野大園

九条前関白 二条内大長 左大長 高野日 右大長 九条

右 産

本多英他与信長 小倉三京右通七史

信 仕

三浦山城与 伊波集人云 戸田清隆与 柴田筑後与

内夜市云 小倉三京右通 田中重成云 神尾内右衛門

依久右内内与 京極右膳云

以上十人法也

法門詔元同小廣呂下檀次の間と控く然付有胎形也  
物以下令銀懐胎

左 産

仁和寺山門法 大覚寺門法 聖徳院門法

照言院門法 梶井門法 大承院門法



実相院門記 象浦院門記 三空院門記

右序

行内門記 一乘院門記 妙法院門記

智恩院門記 蓮院門記 随念院門記

勤修寺門記 長門寺門記

左の序

松平下総守信長 松平河内守景

給仕

織田丹後守 小出信法守 園部利朝守 水野國勝守

山内恒直守 竹中元就守 横山玄佐守 井上清路守

本多將監 秋田集人守 徳永出羽守 伴本兵衛守

川勝信康守

以上十三人志士

徳公が公々及上人沢の奥の廊下に控り懸侍を凡  
百十余人七五三方腰槍振舞同前但し公々志士三方を  
月以殿上人以下非衆人よりくはせ打

序の序

松平式部大進 松平越中守 松平周防守 水野集人守  
是教内膳心

以上五人

信仁

森伊豆守 伊谷信徳守 堀田重頼守 森左衛門  
 赤井忠房守 朽木重頼守 本多丹後守 牧主膳正  
 尾形大和守 松平筑後守 柳田忠義守 松平日向守  
 三好越後守 酒井主膳正 松平侍部守 赤條紀伊守  
 仙石大和守

以上十七人 志を定む

地下百六十餘人及上人下の者の録を控へて侍を  
 平松交信部七又三也

池之丸

本多丸藏守 戸田因幡守 丹羽式部守  
 杉原伯耆守 中桐出雲守 谷出羽守  
 吉本氏部守 府田権左衛門 溝口伊豆守  
 長谷川式部守 石川左衛門 戸桐主膳正  
 以上拾一人

給仕を池之丸の丸中侍烏帽子上下を  
 志し是を設け

公御及上人志大名及上の士壇の方も控へて侍  
 有膳部公家丸同方

松平丹後守 水野日向守 戸田左門

牧神後河守 夏沼織部正 中多伊勢守  
中田下総守

以上七人

給仕を由進男丸の平侍烏帽子下  
を忌一息を役也

徳重以下 徳重又元俊臣より下  
有膳部目守

彦半行

言力梅原守 伴科肥後守 堀丹後守

溝口伯耆守 伏見乃大膳色

以上八人

給仕も由進男丸の平侍烏帽子下  
を忌一息を役也

衆以和文梅原門法公家法人名法  
又<sup>サカ</sup>振舞有彦重并者行給仕同前以

七又之の引替草ノ振舞並白息を用意此と  
いふも深更小及乃々依白息を如き凡

同晚宮元梅原元門法公家元地下もて  
各賜<sup>サカ</sup>之の所<sup>サカ</sup>式<sup>サカ</sup>白浪<sup>サカ</sup>之<sup>サカ</sup>為<sup>サカ</sup>御<sup>サカ</sup>衣<sup>サカ</sup>廿<sup>サカ</sup>也

式と二子<sup>サカ</sup>每<sup>サカ</sup>千<sup>サカ</sup>每<sup>サカ</sup>又<sup>サカ</sup>百<sup>サカ</sup>每<sup>サカ</sup>御<sup>サカ</sup>衣<sup>サカ</sup>十<sup>サカ</sup>依<sup>サカ</sup>又<sup>サカ</sup>依<sup>サカ</sup>仁<sup>サカ</sup>拜<sup>サカ</sup>

依く甲乙有古様よ又西文礼公水礼ハ  
此方カ一腰を添ふも甚小然也  
尚晩秋の内會は多しとの申急日治定  
候ともしも添文下及ふへきに依く朱白  
定評致

